

タイトル： 現場に向かう人とそれをささえる人

氏名： 宮崎 はづき

小学校名： 東京都 私立日本女子大学附属豊明小学校 四年

私のあこがれは、父、母のようなけい察かんになる事です。

学校のクラスみんなの、けい察かんのイメージは、「悪い事をした人をつかまえる。」とか、「パトカーや、白バイに乗って町の中をパトロールする。」という事しか思いうかべていない事に少しがっかりしました。

なぜなら、けい察かんにも、「縁の下の力持ち」の役目を果たしている人たちがいるからです。父と母も、けい察の縁の下の力持ちの一人です。父は、けいし庁の厚生課というところで仕事をしていて、けいし庁ではたらく人たちが、お仕事をしやすいかんきょうを作っているそうです。けい察の人は、夜中まで交代でパトロールをしたり、とても大変なお仕事なので、お仕事がしにくいととてもこまります。父の仕事は、とても重要だと思います。母は、そうび課という所ではたらいています。パトカーとか、せい服を配っている所だそうです。母はけい察かんのせい服を開発したり、配ったりしています。けい察の人は、せい服がないと、おまわりさんと分からないので、この仕事も大切です。

他にも、縁の下の力持ちの役目を果たしている係がいっぱいあると思います。私は、けい察しょで、剣道を習っていますが、剣道の先生は、けい察かんがほうちょうを持ったはん人をつかまえたり、つかまえる時けがをしないように、しょ員の人に教えるお仕事です。それも大切なお仕事だと思います。

私が小さいころ、大好きだった本に、「がんばれパトカー」という絵本があります。その本の中では、パトカーが、朝から夜まで、悪い人がいないかパトロールします。仕事は休んでも、事けんは休んでくれません。事けんが起きれば、すぐげん場へきゅうこうします。

私が小さい時は、地しんの後、父は仕事で何日も家に帰ってこない事が、ありました。母がけい察しょでおとまりをしている時は、一すいもできなかつたと家に帰って、フラフラになっていました。けい察には、たくさんげん場ではたらく人と、それをささえる人がいます。けい察の人は、一生けんめい私たちを守っているのでけい察の人に、感しゃします。けい察の人と、きょう力して悪い人や、はん人をゼロにして、安全な町にしたいです。